

## 福井県衛生環境研究センター活動報告 概要

|       |   |
|-------|---|
| 発表演題名 | 狭水路汽水湖群における有機物指標の考察   |
| 発表学会名 | 令和7年度日本水環境学会中部支部研究発表会   |
| 発表者名  | 石川 翔一（環境部）  |
| 開催場所  | 福井県国際交流会館B1Fホワイエ（福井県福井市）  |
| 発表日時  | 令和7年11月28日（金）12:30～14:00  |
| 発表内容  | <p>三方五湖は、上流域の最大河川であるハス川が三方湖に流入し、水月湖、久々子湖を経て若狭湾へ接続する汽水湖群である。各湖は形状や水深が異なり狭い水路で連なる複雑な構造であるため難分解性有機物の蓄積や水質動態が地点ごとに異なると予想される。本報告では、2018～2024年度のハス川・三方湖・久々子湖と2019～2024年度の水月湖の表層のTOCとCODのモニタリングデータを用いて各地点の有機物特性を考察した。</p> <p>本調査の結果、全観測地点においてTOCとCODの間に有意な正の相関関係が確認された。得られた近似式の傾きが大きいほど、COD法により酸化・分解される有機物の割合が高いと考えられるが、ハス川、三方湖、水月湖、久々子湖の順に近似式の傾きが小さくなる傾向が認められた。このことから、ハス川から三方湖を経て水月湖および久々子湖へと下流側に進むにつれ、過マンガン酸カリウムで酸化されやすい有機物が減少し、全有機物に占める難分解性有機物の割合が増加している可能性が示唆された。この傾向には、湖沼が連続する水系では下流側ほど水が長く滞留し、生物分解が進みやすくなることが影響していると考えられる。また、汽水湖では海水の遡上に伴う塩分の影響を受けるため、流域の末端部では海水による希釈効果が加わり、観測結果に影響を及ぼした可能性も考えられた。</p> |